

## 第5期宮城県食育推進プランの策定に係る考え方

### 1 第1期～第4期プランについて

- 平成18年11月 「宮城県食育推進プラン」策定
- 平成23年7月 「第2期宮城県食育推進プラン」作成
  - ・子どもの肥満やむし歯、メタボリックシンドロームなどの本県の健康課題に着手
  - ・コンセプト「意識の向上から行動へ」
  - ・2つの行動目標を設定：①適正体重の維持、②「食材王国みやぎ」の「食」の活用
- 平成28年3月 「第3期宮城県食育推進プラン」作成
  - ・第2期で改善が見られなかった項目を踏まえ、引き続き2つの行動目標を推進
  - ・コンセプト「次世代へ伝えつなげる食育の推進～五感を使って健やかな心身を育む～」
  - ・子どもやこれから親となる若い世代を中心とした食育を重点的に推進
- 令和3年3月 「第4期宮城県食育推進プラン」作成
  - ・国プラン、第3期の推進状況を踏まえ、内容を引き継ぎつつ行動目標を組替え
  - ・コンセプト「次世代へ伝えつなげる食育の推進～健やかに、宮城で生きる」
  - ・子どもやこれから親となる若い世代を中心とした食育を引き続き重点的に推進
  - ・宮城らしい施策として、みんなで支え合う食育の目標指標に災害時の備えを新設
  - ・国計画に準じ SDGs の観点を追加

### 2 第4期プランの目標達成状況

- 目標達成 : 5項目  
(「ゆっくりよく噛んで食事をする人の割合」「学校給食の地場産品利用品目の割合」等)
  - 目標に近づいた : 3項目  
(「農産物直売所推定売上高」、「肥満傾向児の割合（女子）」等)
  - 変化なし（±1割） : 9項目
  - 悪化傾向 : 1項目（「栄養成分表示を参考にしている人の割合」）
- ※子どもの肥満やメタボリックシンドロームは、依然として全国下位。4つの重点施策の中で「食育を通した健康づくり」の関連項目の達成状況が低調である。

### 3 国の施策の動向

- 令和元年2月「SDGs アクションプラン 2020」において「食育の推進」は、8つの優先課題の一つ「あらゆる人々が活躍する社会の実現」の中に位置付け。
- 「健康日本21（第三次）」(R6～R17)では「誰一人取り残さない健康づくり」を展開するため、「個人の行動と健康状態の改善」を支える「自然に健康になれる環境づくり」を推進することとしている。
- 「食育推進基本計画」は現在第4次（R3～R7）。第5次計画を令和7年度中に策定。第5次計画の3つの重点事項の案として「学校等での食や農に関する学びの充実」「健全な食生活の実践に向けた『大人の食育』の推進」「国民の食卓と生産現場の距離を縮める取

組の拡大」が示された。この項目は、令和7年4月に策定された食料・農業・農村基本計画の中でも、食育の推進事項として位置付けられている。

○食塩の過剰摂取、若年女性のやせ、経済格差等に伴う栄養格差等の栄養課題を重大な社会課題としてとらえ、産学官の連携により誰もが自然に健康になれる食環境づくりの展開を進めるため令和4年3月に、「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」を立ち上げた。各都道府県単位でもアライアンスとして参画することが求められている。

#### 4 第5期プラン策定の方向性（案）

| 項目         | 内 容   |
|------------|---|
| 全体構成       | 第4期プランを引き継ぎつつ、ワーキングの意見を受け、シンプルに、分かりやすい計画となるよう、計画の構成を整理する。   |
| 基本目標       | 第4期プランを引き継ぐ   |
| 重点的に取り組む事項 | 食に関する意識や行動に課題のある子どもや若い世代を重点とした取組は継続する。加えて、食育に関心のない人も含め、すべての人が食育を実践しやすい環境づくりにも重点的に取り組む。                                  |
| 重点施策       | 従来の基本方向は、重点施策に従来の項目を引き継ぎつつ一本化し、推進事項の内容が明確にわかるよう、文言整理する。   |
| 目標項目及び目標値  | 食育プラン推進に向け県民や関係者が「自分が何をどう取り組むべきか」を意識できるよう、県民の意識・直接的な行動に関連する項目と、その行動を後押しする環境整備に関連するものを中心に設定する。これまでの行動目標は、この中に包括していく形とする。 |

#### 5 第5期計画の期間

令和8年度～令和12年度（5か年）

#### 6 検討組織

(1)宮城県食育推進会議（2回）

(2)第5期宮城県食育推進プラン策定ワーキング（2回）

第4期で目標達成状況が低調な「食を通じた健康づくり」及びその推進を支える「健康づくりを支える食環境づくり」に関し、重点的にワーキングで検討。

＜主な御意見＞

- ・健康無関心層、高校生・大学生向けの食育機会の確保は必要。多くの場面で食育が目に触れる、体験する機会を拡大できるよう、関係者のつながりを作る必要あり
- ・発信するメッセージは、分かりやすく、シンプルなものがよい
- ・自然に健康になれる食環境づくりに向けた取組を行う際には、多くの企業に目を向けてもらう工夫、参加のインセンティブや支援などを考えていくことが必要

(3)宮城県食育本部会議（1回）、幹事会（1回）及び庁内食育担当班長会議（2回）